

地域づくり表彰

しもつ
下津井シービレッジプロジェクト

(岡山県倉敷市)

限界集落目前！3人の有志が町の賑わい復活に挑む

しもつ
下津井シービレッジ

プロジェクト

会長

まきのぶ
牧 信男



1. 倉敷市下津井地区の概要

倉敷市南部の瀬戸内海沿岸部に位置し、瀬戸大橋の本州側の起点となる下津井地区。江戸時代から明治時代の中頃にかけて北前船の寄港地として栄え、今も当時の繁栄が伺える街並みが残っています。

下津井地区は、穏やかな瀬戸内海を望むロケーションや情緒溢れる裏路地、新鮮な海産物など、豊富な地域資源を持つ街ですが、直近10年で地域内の人口は約22%減少、高齢化率は43%を超え、人口減少と高齢化が課題となっています。



下津井の街と瀬戸大橋

2. 活動開始の背景・経緯

平成29年、歴史的な建造物が並ぶ下津井の街並みの中で、象徴的な町家である「中西家」が、老朽化を理由に取り壊される危機にありました。そのとき、「中西家」を何とか存続させようと、私を含めた3人で活動をスタートさせました。

私たちは中西家の存続を探る中で、下津井地区の加速する人口減少や、40%を超える高齢化率、空き家問題、不漁による漁業の衰退、観光産業の低迷、次世代を担う人材不足など、下津井が抱えるいくつかの課題に危機感を覚えました。

そして、中西家の存続のみではなく、下津井を持続可能な街とするため、「下津井シービレッジプロジェクト」を立ち上げました。



3人の発起人

3. 活動の広がり

活動を始めた頃は、地域住民や漁業関係者との摩擦、運営資金の不足など、多くの苦労を経験しましたが、地域のためにと地道に活動を続けていくことで、地域住民の理解も得られるようになり、漁業関係者との関係も良い方向へと向かっていきました。

スタート時3人だったメンバーは、地域住民や移住者等が加わり、地域外から参加してくれるメンバーも増え、現在では45人程まで増えました。若い移住者が増えており、若者が若者を呼び込むという、良い循環が生まれていると感じています。

4. 法人化

当初はボランティア団体として立ち上げましたが、活動を行う中で、この活動を持続可能なものとするためには、団体として収益を生み出すことが必要であり、若い世代に良い形で引き継いでいくためにも法人化が必要と考え、社会的企業として「しもつシービレッジ株式会社」を設立しました。

次の4項目を経営理念とし活動を行っています。

- ・地域を元気に！誇りの持てる街にする
- ・次世代を担う人材を育成する
- ・地域でお金が回るシステムを作る
- ・観光振興や移住促進に取り組む

5. 活動内容

月に1～2回の定例会を7年以上休むことなく継続し、開催回数は160回を超えました。地道に定例会を続けていくことが、私たちの活動の礎となっています。

個々が能動的にアイデアを出せるなど活動しやすい場とするため、事業毎にチームを組んで行っており、個人間の横連携の促進にも繋がっていると考えています。



定例会の様子

団体の具体的な活動内容としては、マルシェや朝市などの賑わい創出イベントの開催、地域の事業者の活動や創業の支援、空き家対策・古民家利活用への取り組み、インターネットやSNSを使った情報発信、移住促進や関係人口の創出のためのお試し住宅の運営や交流会の実施、伝統文化の継承のためのイベント企画・運営など、多岐にわたっています。

①賑わい創出イベントの開催

地域外から人を呼び込むマルシェや朝市の開催により、地域の賑わいや地域住民とよそ者（移住者や域外住民）との交流の場を創出し、地域外資金の流入にも繋がっています。



マルシェの様子

また、地域住民や移住者の交流を目的としたイベントも実施し、地域と移住者との繋ぎ役も担っています。



「下津井酒場」の様子

②地域の事業者の支援

中間支援組織として、事業者と地域や行政、商工会議所等との繋ぎ役を担い、事業者の創業や事業拡大を支援しています。

2024年3月には、漁港のそばに立地する海産物店を「しもつ横丁」にリニューアル。新たに鮮魚店がオープンし、連日賑わっています。若手創業者のトライアル出店もできます。



しもつ横丁

③空き家対策・古民家の利活用

地域の空き家を把握し、空き家対策や古民家の利活用に繋げる活動を積極的に行っています。家主から空き家を借り上げ、移住者等に提供するサブリース事業も実施しています。



古民家のリノベーション



空き屋把握のワークショップ

④伝統文化（下津井節）の継承

若手メンバーが中心となり、2024年10月に下津井発祥の民謡である「下津井節」を活用したイベント「下津井宵灯り」を新たに開催しました。地域の内外へ下津井の伝統文化や魅力を発信でき、地域の子どもたちへの継承という面でも大きな効果があつたと感じています。



踊りの練習の様子



「下津井宵灯り」の様子

6. 創意工夫

私たちの活動に参加する約45名のメンバーのうち、下津井の地域外に住んでいる方が約6割を占めています。エリア外から多くの人材が集まることで、これまで地域内だけでは成し得なかった地域イベントの開催や空き家・古民家関連事業（セミナー、斡旋、改修等）、移住定住支援など、多面的な活動が可能となっています。

また、行政と連携することで活動の幅が広がりました。お試し住宅の設置や積極的な情報発信により、年間約150名の移住検討者がこの地を訪れています。移住促進に繋がることはもちろん、こういった事業を行うためのノウハウを得ることができる貴重な経験となっています。

7. 成果

私たちの活動によって移住した方や新たに事業を始める人、2回目、3回目とこの地を訪れてくれる関係人口が増加し、街に活気が戻りつつあります。私たちの活動に参加して

いる移住者は10名を超え、若手の移住者が経営する古民家一棟貸しの宿がオープンするなど、事業に挑戦する移住者も増えています。移住者や事業者の増加により、地域内での人流が増え、昔からある既存店舗の売り上げにも良い影響を与えており、域内での資金循環や域外からの資金流入に貢献できていると感じています。



下津井宿「風待汐待」

また、このような活動がテレビや新聞などのメディアに取り上げられることも増え、街の認知度向上にも繋がっています。

若手メンバーがチームを組み、SNSを使った情報発信も積極的にしており、関東などの都市部から20～30代の若い世代を呼び込むことができています。

このように、少しずつでもこの街を訪れてくれる人が増え、以前よりも街が活気ついた場面を目にすると、私たちの活動の成果を感じることができます。

8. 課題と展望

若手のメンバーが増えてきており、今後、主として引っ張っていく後継者の育成を行っていく必要があります。私としては、女性が活躍できる活動にしたいという思いもあるため、今後、女性メンバーにこの活動を引っ張ってってもらいたいと思っています。企業経営という観点も必要になるので、今後は一層、人材育成にも力を入れていきたいと考えています。

また、この活動を始めるきっかけとなった中西家の復活についても、まだ道半ばなので、段階的に整備していけるよう、地域一丸で取り組んでいきたいと考えています。